

中間支援活動助成(基本)事業 実績報告

団体名	(公財)ひょうごコミュニティ財団	代表者名	(職名) 代表理事	(氏名) 西河紀男・実吉威
事業名	NPOと市民の“資金の縁結び”の仕組み『共感寄付プログラム』によるNPOの資金獲得支援			

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・ 情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 実績	19回/19件	1回	34名/1回	9件	0件
R7 計画	30回/30件	1回	10名/1回	60件	13件
R7 実績	31回/46件	1回	67名/2回	55件	10件

< 効果と成果 >

NPO団体の資金獲得という課題は、助成金を出す財団という立場としても非常に困難なものであると日々の支援活動から感じる一方、2012年の前身から累計3,400件近くものご寄付を頂戴しており潜在的に誰かの役に立ちたいと思っている市民の方が多数いらっしゃることも実感している。

その市民と団体を結びつけることも中間支援の役割の一つと考えており、寄付控除が使えるという強みがあるこのプログラムはNPOの資金獲得の必ず役に立てるものである。

今回の助成によって広報物の作成や県内各所への配架などの広報に力を入れることが出来た。また約40団体が参加する交流会を開催しNPO同士をつなぐ役割も果たせた。ファンドレイジング講座、座談会では参加団体に資金調達の基礎をお伝えし、団体同士の寄付集めの情報交換が出来た。

レインボーフェスタ出展では来場者に300部チラシを配り、ブースに立ち寄ってくださった方にはプログラム説明に加えて兵庫県でいろんな活動をしている団体があるということを地道にお伝え出来た。その場で寄付を下さる方もいた。

また、ブース出展している大企業の社員の方とお話する機会を得たことで社会課題に関心のある方に共感寄付プログラムの存在を知っていただき、逆にボランティアの紹介などの要望もお伺いしたので、今後企業とNPOをつなぐ機会が出来たことが最大の収穫であった。

< 今後の展望 >

NPOとして市民の方に信頼されて応援されて育てられるという本来のあり方を目指すためには各団体が助成金頼みになるのではなく支援者からの寄付を集めることが重要である。

新規参加団体への説明会の応募数や、その後の参加団体数の大幅な増加(参加団体数 9団体 30団体に増加)などからも共感寄付プログラムの活用がNPO支援のひとつとして強く求められると感じた。

現状では、他のクラウドファンディングサイトに比べると知名度が低いのが課題である。知名度が上がれば団体の寄付集めがしやすくなることに加え、参加団体が増えてスケールが大きくなることで手数料の引き下げが可能になり団体の手元により多くの資金をお渡しすることが出来るので、今後マスコミへの発信やホームページの充実、寄付のしやすさの改善、企業の協賛を募るなどの取り組みを継続したい。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	5 0 0 , 0 0 0
自己資金等	2 4 2 , 8 9 8
合 計	7 4 2 , 8 9 8

(支出)

区分	項目	金額(円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	印刷製本費	33,281	33,281
	人件費	531,489	288,896
	業務委託費	33,000	33,000
	その他(消耗品費等)	145,128	144,823
	小計	742,898	500,000
間接経費(一般管理費)		0	0
合計		742,898	500,000